

九州建設技術フォーラム 2015 開催報告

1. 九州建設技術フォーラム主旨

九州建設技術フォーラムは、新しい建設技術の開発・活用・普及の促進をより効果的に図るため、「産」「学」「官」それぞれが新技術の開発・活用の取組みについて情報を発信し、「産」「学」「官」で技術情報のプレゼンテーションや展示、意見交換会等の形をとりながら連携を深め九州のさらなる建設技術の発展を目指すものです。

今年は、メインテーマに「九州の創生を担う建設技術」を設定。講演では、下部構造・社会資本分野、そして公共政策、地域政策デザイン分野の学識者2名を講師に迎えて開催しました。また、「産」「学」「官」連携の更なる強化を図る観点から主催に佐賀県、熊本県、宮崎県、熊本市を新たに加えて実施しました。

2. 開催結果

【開催日時】 1日目：平成27年10月5日（月） 13:00～17:00
2日目：平成27年10月6日（火） 10:00～16:30

【開催場所】 福岡国際会議場 1Fロビー、2F多目的ホール、3Fメインホール
(福岡市博多区石城町) TEL.092-262-4700

3. 実施内容

●1日目（5日）

(1) 基調講演

- ・演題：「地形から見る都市の誕生と発展」
- ・講師：竹村公太郎氏（特定非営利活動法人 日本水フォーラム代表理事・事務局長）



(2) 技術情報提供

1) プレゼンテーション

- ・時間：発表時間10分 質疑応答・入れ替え時間5分
- ・テーマ：「環境」「安全防災」「ICT」「品質」「学会関係」「行政関係」
- ・発表数：17テーマ（発表者数15者）
(企業・協会等：12 学会関係：1 行政(国)：1 行政(地方自治体)：1)
※学会：九州橋梁・構造工学研究会
※行政：国土交通省九州技術事務所 熊本県



2) ポスターセッション

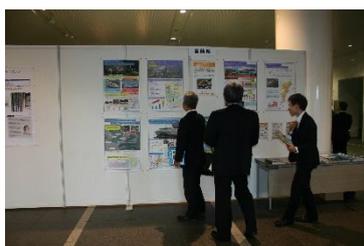
・ 出展数：14

(企業・協会等：2 学会関係：4 行政(国)：1 行政(地方自治体)：7)



3) 自治体パネルの展示

・ 出展自治体：7自治体 (福岡県 佐賀県 熊本県 宮崎県 福岡市 北九州市 熊本市)



4) 技術情報の展示

・ テーマ：「安全防災」「環境」「コスト」「品質」「ICT」「維持管理」 学会関係

・ 出展数：102ブース (出展者数：1階11者 2階91者 計102者)

▼ 2階展示会場



▼ 1階展示会場



5) 新技術相談

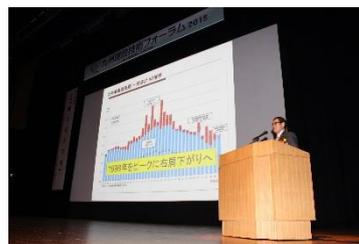
・ 下関港湾空港技術調査事務所、九州技術事務所、九州地方整備局施工企画課・港湾空港部の4部署による新技術の相談



●2日目(6日)

(1) 記念講演

- ・演題:「稼ぐインフラ」
- ・講師: 谷口博文氏(九州大学産学連携センター長)



(2) 技術情報提供

1) プレゼンテーション

- ・時間: 発表時間 10分 質疑応答・入れ替え時間 5分
- ・テーマ: 「安全防災」「コスト」「維持管理」「学会関係」「行政関係」
- ・発表数: 25テーマ(発表者数 25者)

(企業・協会等: 22 学会関係: 2 行政(国): 1)

※学会: 土木学会西部支部 地盤工学会九州支部

※行政: 宮崎港湾・空港整備事務所



2) ポスターセッション

- ・出展数: ※1日目共通



3) 自治体パネルの展示

- ・出展者: ※1日目共通



4) 技術情報の展示

- ・テーマ：「安全防災」「環境」「コスト」「品質」「ICT」「維持管理」 学会関係
- ・出展数：※1 日目共通

▼ 2階展示場



▼ 1階展示会場



5) 新技術相談

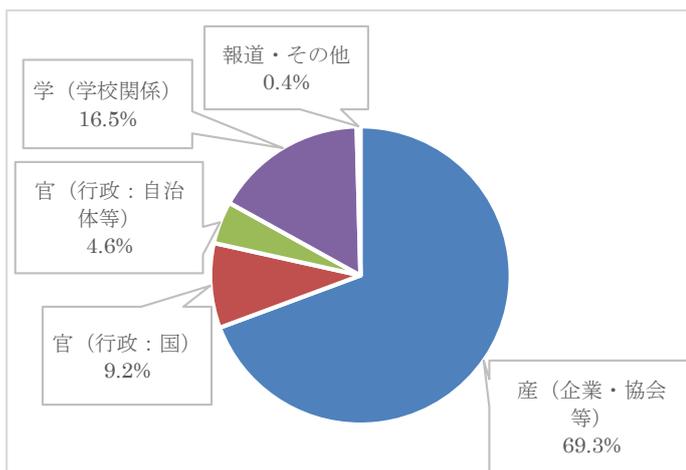
※1 日目共通



4. 入場者数

【産官学別】

受付区分	今年度	昨年度
産（企業・協会等）	1,919	1,806
官（行政：国）	256	97
官（行政：自治体等）	127	99
学（学校関係）	458	648
報道・その他	12	32
合計	2,772	2,682



【都道府県別】

出身	5日	6日	合計
福岡県	1195	1,021	2,216
佐賀県	128	39	167
長崎県	14	8	22
大分県	31	21	52
熊本県	35	17	52
宮崎県	14	15	29
鹿児島県	16	18	34
沖縄県	0	4	4
山口県	12	4	16
広島県	9	2	11
岡山県	3	3	6
兵庫県	1	0	1
鳥取県	1	2	3
大阪府	9	16	25
三重県	2	5	7
京都府	2	3	5
和歌山県	1	0	1
愛知県	5	1	6
岐阜県	1	2	3
福井県	4	1	5
神奈川県	0	2	2
山梨県	4	4	8
東京都	42	28	70
埼玉県	2	0	2
宮城県	6	0	6
岩手県	2	0	2
北海道	5	0	5
不明	12	0	12
合計	1,556	1,216	2,772

【講演・プレゼン会場別】

		5日	6日	合計
講演来場者		852	766	1618
プレゼン聴講者	A 会議場	318	439	757
	B 会議場	276	378	654
	小計	594	817	1,411

5. 出展技術および所属団体別出展者内訳等

□出展技術数内訳

(技術)

ICT	17
コスト	15
安全・防災	45
環境	32
品質	11
維持管理	27
合計	147

※学会関係を除く

□出展者履歴内訳

(組織)

新規	25
出展実績有	77
合計	102

□出展者所属団体内訳

(組織)

日本建設業連合会 九州支部	5
日本道路建設業協会 九州支部	1
日本橋梁建設協会 九州事務所	2
日本埋立浚渫協会 九州支部	1
プレストレストコンクリート建設業協会	1
全国特定法面保護協会 九州地方支部	4
九州コンクリート製品協会	2
建設コンサルタンツ協会 九州支部	15
その他	64
学会	3
発注機関	4
合計	102

□技術情報の提供方法

(組織)

ブース展示+プレゼン	34
ブース展示のみ	68
プレゼンのみ	0
カタログのみ	0
合計	102

属性	出展機関所属団体	出展・参加者数	
ブース展示	産	日本建設業連合会九州支部	5
		日本道路建設業協会九州支部	1
		日本建設機械施工協会九州支部	2
		日本橋梁建設協会九州事務所	1
		プレストレストコンクリート建設業協会	1
		日本埋立浚渫協会九州支部	2
		全国特定法面保護協会九州地方支部	4
		九州コンクリート製品協会	2
		建設コンサルタンツ協会九州支部	15
		その他	64
	学	土木学会西部支部	1
		地盤工学会九州支部	1
		九州橋梁・構造工学研究会	1
	機 関 注	(独) 土木研究所寒地土木研究所	1
		西日本高速道路	3
	計	104	
プレゼンテーション	産	日本建設業連合会九州支部	2
		日本道路建設業協会九州支部	1
		日本橋梁建設協会九州事務所	1
		日本埋立浚渫協会九州支部	2
		全国特定法面保護協会九州地方支部	1
		九州コンクリート製品協会	2
		建設コンサルタンツ協会九州支部	3
		その他	18
	学	土木学会西部支部	3
		地盤工学会九州支部	3
		九州橋梁・構造工学研究会	3
	行政	熊本県	1
	発 注 機 関	九州技術事務所	1
		宮崎港湾・空港技術調査事務所	1
		西日本高速道路	1
(独) 土木研究所寒地土木研究所		1	
	計 (コマ)	44	

6. プレゼンテーション聴講者数

□10月5日プレゼンA会場 プレゼンテーション聴講者数

A会場		
順番	プレゼン者名・テーマ	聴講者数
1	地盤情報活用システム活用事例の紹介	45
	八洲開発株式会社	
2	CIM	52
	(一財)日本建設情報総合センター	
3	建設機械の自動化による次世代建設生産システム「A40SEL(クラウドアクセラ)」	51
	鹿島建設株式会社	
4	マッドミキサー工法・3D施工管理装置	32
	マッドミキサー工法協会	
5	レストム工法	29
	レストム工法研究会西日本支部	
6	CV護	31
	株式会社ヤマウ	
7	市民アイデアの実現化！！ 「福岡市都市にある舞鶴公園でのヤギ・羊を用いた 市民除草効果」検証報告	32
	(一社)建設コンサルタンツ協会九州支部	
8	丸太打設液状化対策&カーボントック工法 —LP-LIC 工法—	20
	木材活用地盤対策研究会	
9	「九州のフィールドに適用した新技術の活用促進に 関する取り組み」	26
	国土交通省九州技術事務所	

□10月5日プレゼンB会場 プレゼンテーション聴講者数

B会場		
順番	プレゼン者名・テーマ	聴講者数
1	ポリエステル製高耐久STKネット 他	35
	株式会社カミナガ	
2	多分割カルバート工法	45
	株式会社ヤマックス	
3	斜面に新景観！「フラットキャップ」	38
	炎対新技術研究会	
4	橋梁向け耐震製品の紹介	39
	株式会社横河ブリッジ	
5	熊本天草幹線道路大矢野バイパス新天門橋(仮称) 工事の進捗状況について	44
	熊本県	
6	①KABSE(九州橋梁・構造工学研究会)紹介	30
7	②既設橋梁の耐震補強手順の整理とデータベース化に関する研究分科会の活動報告	24
8	③既設橋梁の耐荷性能評価および劣化損傷した橋梁に対する補修・補強工法の効果に関する研究分科会の活動報告	21
	(一社)九州橋梁・構造工学研究会	

□10月6日プレゼンA会場 プレゼンテーション聴講者数

A会場		
順番	プレゼン者名・テーマ	聴講者数
1	バンウォール工法・キャブウォール工法	40
	PAN WALL工法協会	
2	硬質地盤クリア工法	39
	全国任入協会	
3	海岸護岸における防波フェンスの波力算定法	33
	国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所	
4	Flap-Flap(伸縮式ストラット)工法	28
	あおみ建設株式会社	
5	3次元変位計測システム ダムシス	37
	計測ネットサービス株式会社	
6	3D地中変位計 Shape Accel Array	35
	新川電機株式会社	
7	フル・ファンクション・ペーパー(FFP)	35
	株式会社ガイアート・K	
8	ケイワンコイルネット工法	36
	栗石研究会	
9	写真計測による3Dモデル構築システム 他	45
	いであ株式会社	
10	STマイクロバイル工法	34
	NEJ研究会	
11	高精度画像によるコンクリート調査システム	45
	株式会社アルファ・プロダクト	
12	豪雨時の避難のあり方と地域防災力強化に関する調査研究報告 (公社)土木学会西部支部	32
13		
14		

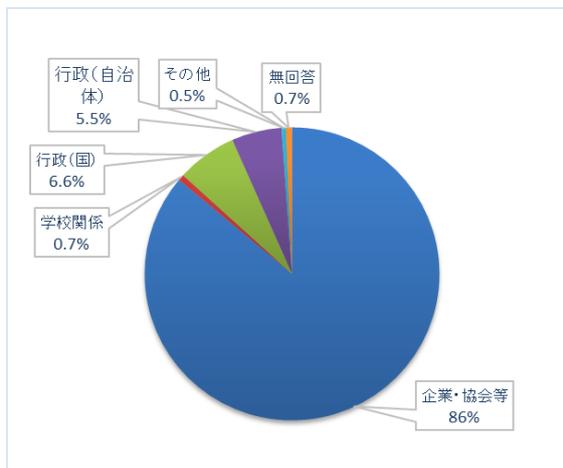
□10月6日プレゼンB会場 プレゼンテーション聴講者数

B会場		
順番	プレゼン者名・テーマ	聴講者数
1	ウッドプラスナックテク製鉄き板「Wボード」	23
	株式会社ウッドプラスナックテクノロジー	
2	FTJ-FAN工法	29
	株式会社不動テトラ	
3	エポコラム工法 (エポコラム-Leto 工法・エポコラム-Taf 工法)	35
	エポコラム協会 九州支部	
4	「大規模防災施設における雷水災害リスクを 低減する焼結化施工について」	28
	国土交通省宮崎港湾・空港整備事務所	
5	地盤工学会の活動概要と今年度研究委員会について	26
	(公社)地盤工学会九州支部	
6	九州地盤情報共有データベースの紹介	32
	(公社)地盤工学会九州支部	
7	2013-2014年度研究委員会「地域性を考慮した大規模災害時防災技術に 関する研究委員会」の総括報告	30
	(公社)地盤工学会九州支部	
8	エボガードシステム	31
	株式会社エコクリーン	
9	可視画像を使用したひび割れ調査方法の紹介	30
	株式会社保全工学研究所	
10	コンクリート構造物の耐久性向上・長寿命化を図る 【RCガーデックス シリーズ】	37
	日本躯体処理株式会社	
11	トンネル覆工点検システム	37
	西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社	
12	真空吸着型圧力調整注入工法	20
	株式会社学組	
13	老朽化吹付法面の再構築 ニューレスプ工法	20
	日特建設株式会社	

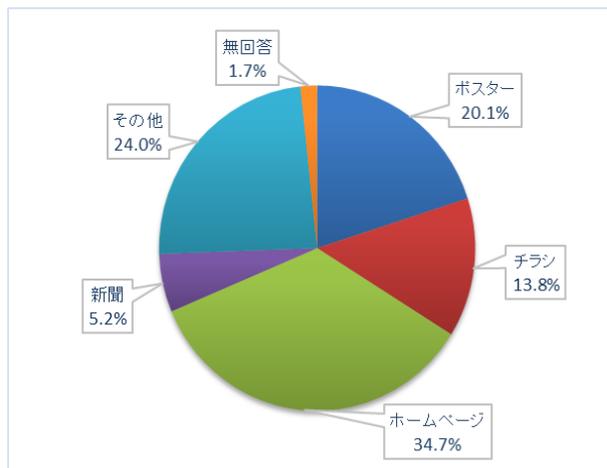
7. 来場者等へのアンケート調査結果

【来場者アンケート】

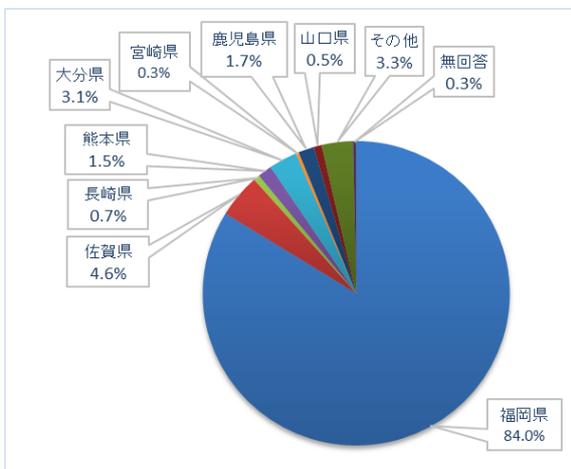
●職業は？



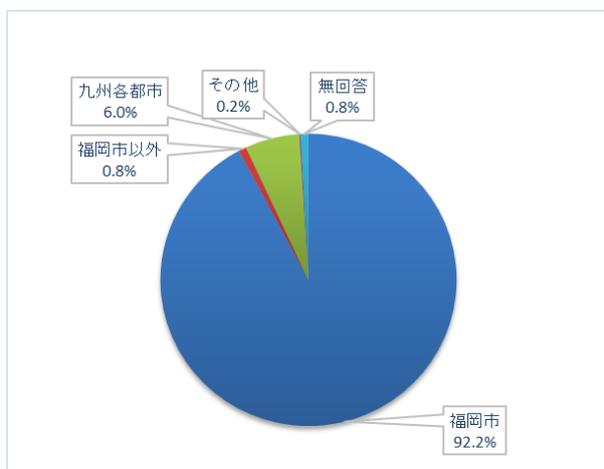
●何で知りましたか？



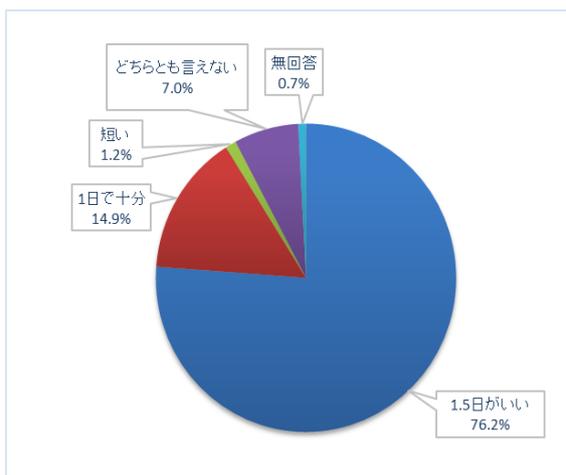
●どちらから来られましたか？



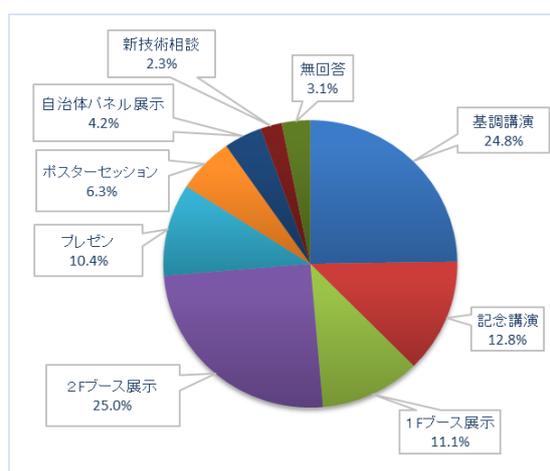
●望ましい開催地は？



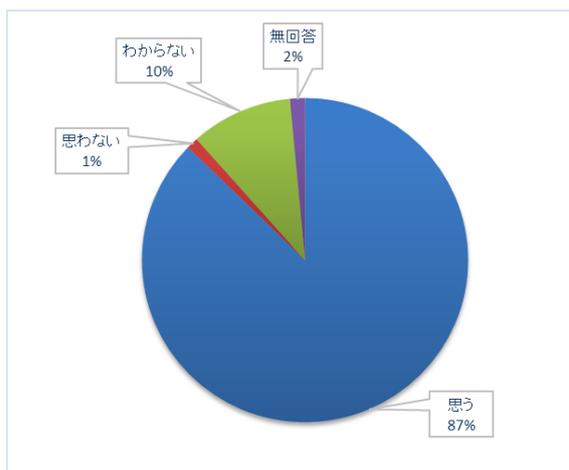
●開催日数の希望は？



●印象に残ったプログラムは？



●今後参加したいですか？

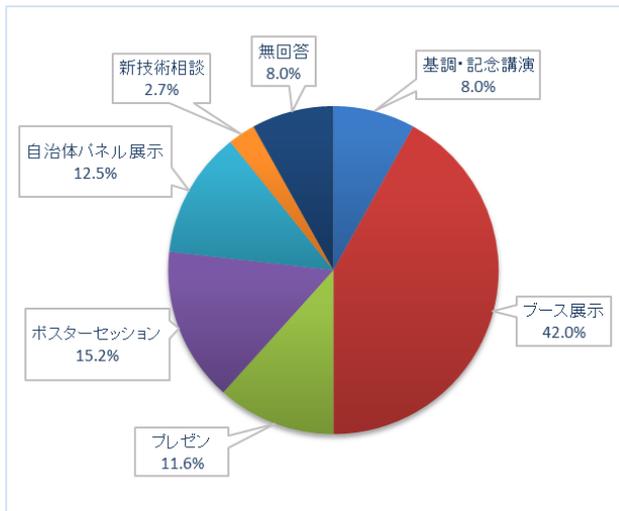


●フォーラムへの主な要望

- ・近年災害が多いので災害対策の製品提案もしていただきたい。
- ・引き続き新技術の開発を進めて頂きこのような場で紹介して欲しい。建設技術フォーラムは全国的な情報が共有できる様をお願いします。
- ・新技術相談コーナーの充実
- ・展示1つ1つのコーナーを広くする
- ・1日で十分(午前基調講演、午後記念講演、討論会)。
- ・土木技術の社会への貢献を考えると、もっと一般の方々の参画を！その意味では土・日に開催する事を考える必要があるのでは！
- ・各ブースの大きさが小さいと感じた。2ブースで1ブースくらいの大きさの方が良いかと思います。
- ・技術情報の展示だけでなく、もっとわかりやすく実物(展示しているものもあるが)を展示してほしい。
- ・もっと広く開催のPRをしてください。
- ・引き続きの開催を期待しています。(他8件)
- ・各ブースの技術アピールが簡潔にまとめられたものがあれば訪問しやすいし、又出展者にもアピールポイントをブースに明確に出していただくことが訪問につながりやすい。
- ・基調講演は意義深かったが記念講演は今一つだった
- ・CPDの点数をあげてほしい。
- ・今後補修関連工事が増えると思うので耐震、補修関連の技術の情報を沢山展示し欲しい。
- ・新しい技術を知ることができ、非常に有意義でした。ありがとうございました。
- ・日程等の情報は早目に
- ・CPDください
- ・建設産業関係の従業員の給与レベルと労働時間について。
- ・コンクリートの技術向上(強度)、コンクリートのクラック対策。
- ・ポスターセッションのブースがややせまい。種類毎に集約した方が見やすいと思う。
- ・①企業と学生(先生も)とが交流する場の提供 ②社会人1年生の出る催し(発表、交流)。
- ・防草対策に対するフォーラム(新技術や旧技術に対する)。
- ・建設分野を希望する学生を増やすため、学生が興味を持ちそうなテーマで講演等を行う必要があると思います。
- ・プレゼンの場所が狭すぎて入れない(他2件)
- ・新技術を設計積算に活用しやすいルールづくりをお願いします。
- ・最先端の技術に触れて説明も聞くことができる貴重な機会。出展者側としては、発注者、設計者の方にもっと参加いただきたい。
- ・産官学が連携する機会なので、防災等の取り組みや、互いが「こうして欲しい」と意見を出すパネルディスカッションがあれば良い。
- ・プレゼンテーションのインデックスがわかりやすい場所に掲示してあればなあと思いました。

【学 生】

●関心を持ったプログラムは？



●印象に残ったプログラムや技術は？（抜粋）

- ・清水建設：大規模な事業に興味が出た。近未来的で夢があった。
- ・UVA 3Dの測量機(他5件)
- ・土壌汚染に関しての会社が気になりました。
- ・歴史をインフラや木をキーワードに読みといてとても興味深くおもしろかったから。
- ・プレゼンテーション
- ・河川工のITC化(画像処理で問題がわかるから)。
- ・オリエンタルコンサルタンツのブース(ICTを応用した技術レベルの共有)。
- ・不動テトラ(いろんな地盤改良工法について理解できた)。
- ・地下水がある土の中で木をうめても長持ちすると聞きビックリしました。
- ・津波・漂流物防護柵。これから津波対策に向けてがんばってほしい。
- ・宮崎を盛り上げるために、フェリーの大きさを変化させるといった試みを面白く感じた。
- ・飛鳥建設の「丸太打液状化対策」は、地中の中で丸太が健全な状態を保てる事に驚き、また従来の密度増大工法を同様の液状化対策が出来るということで、環境にも優しく興味を持った。
- ・バックホーの無人化施工の操作(他3件)
- ・PC-壁体の説明を聞いてまだ自分が知らない壁体のことを知ることができた。
- ・どれもとてもよかったです。自分にとってはとても難しいことばかりでしたがとてもいい勉強になりました。
- ・株式会社富士健の機械が素晴らしいと思った。
- ・PC-壁体が地盤を固めたりしていることを聞いて印象に残りました。
- ・普段習っていることをもっと専門的にプレゼンしていたところが印象に残った。
- ・最新の技術、昔から行われ、今まで継続されている技術など、いろいろなことが知れてよかったです。
- ・3Dプリンターの技術にすごく興味を持ちました。(他8件)
- ・すべて興味深く、おもしろかったです。各ブースでの取り組みに様々な工夫が見られて感嘆しました。
- ・河川堤防に関して提示している企業(最近の洪水で関心を持ったため)。
- ・雑草アタックについての展示。自分が研究する内容に深く関係していたため。
- ・レストム工法研究会(土木でも環境に配慮しているのがすごかった)。
- ・既存モルタル再生工法研究会の方達が自分達が研究した内容、目的、成果、問題などを熱心に話してくださったから。
- ・杭汚泥のブースが印象に残りました。
- ・清水建設の太平洋上に浮かぶ環境アイランド。今までにないものだからです。
- ・強く印象に残ったのは稼ぐインフラの講演。あまりインフラについて知らなかったから良い機会だった。
- ・模型があってわかりやすい。(他3件)
- ・ドローンを使った最新技術。
- ・プラスチックで仮設の道路を造っていること。

- ・コニシ株式会社建設業の中で、ボンドの製作や、緩衝材を用いた技術は、すごいと思いました。
- ・クラブハウのウェアラブルカメラ。職人などの技術を見られること、見て学ぶをしっかりと表現されていた。
- ・稼ぐインフラの講演。これからの建設に必要な取り組みがよくわかった。
- ・東京建設コンサルタントの災害避難シミュレーションには強い印象を受けた。ある地域の災害時の人の動きを細かく分析し、対策をする為、ピンポイントで避難所を建設する技術に感心しました。
- ・飛島建設。樹木を使った液状化対策が興味深かった。
- ・新しい技術や、工夫で生活が楽になったり快適になったりすることがとても良いと思いました。近未来的な施設等の計画の話聞くことができ、夢がふくらみました。
- ・長尺かごマット工法。プラスチックでつくることができ、なおかつ強度が強いことに驚いた。
- ・土木とは関係なさそうと思っていたものが土木の業界で使われていたこと。
- ・ドリームシールというタイヤのパンクを防げる液体は、普段でも乗用車等に使えるのですすごい(他4件)。
- ・公と私の境界がおぼろげになってきた所などに深い興味がわいた。
- ・清水建設の海に地盤を形成して、そこに人が住めるように計画されていたり、海底にトンネルを通すなど人ってそんな所にまで住もうとしているのか、と驚きました。
- ・記念講演の中のインフラ問題について知ることができ、とてもよかった。
- ・今の業界がどのような状況におかれているか分かったから。
- ・基調・記念講演は、今まで自分のもっていた視点とは全く異なる話をきかせていただいたので。
- ・興味のある企業について知ることができ新技術についても多く学ぶことができたため。